

事務事業	10009	出産・育児支援事業	担当課 課長	健康課 作本和美	担当係 担当者	健康管理係 瀬田亮子
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	170 親と子の健康を維持・増進する		款	4	衛生費
法令根拠条例等			項	1	保健衛生費	
			目	3	母子衛生費	
			基本事業			
個別計画						
実施期間	<input type="checkbox"/> 28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		H27 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度	

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 低出生体重児・未熟児・双子をもつ母親に対して、訪問を産後早期に、また継続的に行うことで、育児に関する不安の軽減や支援を実施する。 また、同じ未熟児等をもつ親同士で交流する教室を開催することで、親が子どもの状態を肯定的に受け入れ、育児を積極的に行うことができるよう支援する。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) ・低出生体重児・未熟児訪問の依頼。病院からサマリーが来ているケースについては支援結果報告書の作成の依頼。支援結果報告書の郵送。 ・未熟児教室の企画・立案。対象者の抽出と通知。講師の手配。	講師謝礼金 36 千円
	千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務事業の目的	① 手段(主な活動) 28年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ・低出生体重児・未熟児訪問 ・未熟児教室の企画・立案。対象者の抽出と通知。講師の手配。	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	指標数値			
		名称	単位	27年度	28年度	29年度
		ア 低出生体重児・未熟児訪問数	件	30	27	30 (見込)
		イ 未熟児教室開催数	回	1	2	2 (見込)
		ウ				(見込)
		② 対象(誰、何を対象にしているのか) 低出生体重児・未熟児 双子	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	指標数値		
		名称	単位	27年度	28年度	29年度
		ア 低出生体重児数	人	35	39	35 (見込)
		イ 未熟児教室対象者数	人	43	58	50 (見込)
		ウ	人			(見込)
	③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 安心して妊娠・出産・育児をすることができる。	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	指標数値			
		名称	単位	27年度	28年度	29年度
		ア 未熟児・低出生体重児訪問の実施率(訪問者/対象者×100)	%	目標 90.0 実績 85.7	90.0 79.4	90.0
		イ 未熟児教室の参加率(参加者/対象者×100)	%	目標 50.0 実績 30.2	40.0 20.7	40.0
		ウ		目標		
				実績		
		エ		目標		
				実績		
		オ		目標		
				実績		

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)	27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)
	国・県支出金、地方債等	86	1,130	34	800	800	800
	受益者負担等						
	一般財源	65	1,464	1,176	2,141	2,141	2,141
	合計(A)	151	2,594	1,210	2,941	2,941	2,941
	(内臨時・嘱託職員人件費)		2,548	1,174	2,565		
	正職員人件費[按分](B)	1,282	2,625	2,218	1,507		
トータルコスト(A)+(B)	1,433	5,219	3,428	4,448	2,941	2,941	

# 事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

## (3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成25年度、権限委譲により未熟児養育医療、未熟児訪問、低出生体重児届出が県から町へ委譲された。それに伴い、これまで県で「妊娠期からのケア・サポート事業」として行われてきた、未熟児養育医療申請者を対象とする子育て教室を平成27年度より町が引き継ぎ、ハイリスク妊産婦の支援を行うこととした。	未熟児は正常で出生した児に比べ、成長発達が緩やかで保護者は不安を抱えやすい。また、突然の出産で小さく産んでしまったことへの罪悪感等を母親は抱きやすく、子どもを受け入れることが難しい場合もあり、町で継続的に支援していくことは虐待予防の観点からも必要である。	未熟児教室はH27年度より町で実施を始めたが、今年度は双子も対象者に加え2回実施した。教室後のアンケートより、「同じ未熟児を持つ親と交流できたことがよかった」「同じ双子のママと知り合えてよかった」という声も聞かれたが、「もう少し小さいうちにこの話を聞きたかった」という声も聞かれた。

## (4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善  <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	・未熟児訪問は継続して実施 ・未熟児教室は年2回開催。 ・対象者を拡大する(平成26年・27年の養育医療申請者、在胎週数37週未満かつ2,500g未満の子、未熟児ではない多胎児の子)。 ・シーメイトの子育て支援センターで【赤ちゃんサロン】や【双子のつどい】を実施しているので、今後連携を密にして支援に取組んいきたい。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません)  <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

## 2 評価(SEE)及び全体総括の部 \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

### (1) 評価

	評価の理由
<b>目的妥当性評価</b> ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	未熟児の出産は小さく産んでしまったことへの罪悪感等を母親は抱きやすく、子どもを受け入れることが難しい場合もあり、双子は育児負担が大きいいため、町で早期に継続的に支援していくことは虐待予防の観点からも必要であり貢献度は大きいと考える。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	未熟児は正常で出生した児に比べ、成長発達が緩やかで保護者は不安が大きいと同じような子をもつ親と出会う機会がない。また、双子も外出するのが大変で同じように双子をもつ親と出会うことが少ない。出生後早期に関わることで、育児不安の軽減と同じような子をもつ親と知り合う場の提供ができる。これは、地域の状況を知っている行政だからできることであり、税金を使って行う意義は高いと考える。
<b>有効性評価</b> ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	参加者の満足度は高かったが、参加率は低かった。対象者の見直し等を行えば、もっと参加率の向上は見込めると考える。
<b>評価</b> ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	町内で同様の事業の実施はなく、その他で支援するものはない。
<b>効率性評価</b> ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	未熟児の訪問や教室は専門的な視点が必要であるため、人件費の削減は難しい。

### (2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・未熟児訪問の実施率が前年度より低下したのは、長期里帰りの方が多く、今年度中に訪問できなかったことが原因と考える。</li> <li>・未熟児教室については、今年度、双子も対象者に加えての実施であったが、参加率は低かった。電話での参加の呼びかけもしたが、参加者が少ない一因として、保育園に就園していることが考えられる。そのため、次年度は対象を1年下げ、対象の方に来ていただけるようにしていきたいと思う。また、内容についても、幅広い年齢でも満足できる内容にしていきたいと思う。</li> </ul>
---

## 3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→  <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	・未熟児訪問は継続して実施。 ・未熟児教室の対象を平成28年・平成29年度生まれの①未熟児・在胎週数37週かつ2500g以下の子、②双子・多胎児の子にする。 ・教室の内容を①体を使う遊び ②音楽療法とする。